



Title	事態参与者に対する活動制限を示す remain V-ed の主格補語構文
Author(s)	岩宮, 努
Citation	待兼山論叢. 文学篇. 2022, 56, p. 39-60
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/94864
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

事態参与者に対する活動制限を示す *remain V-ed*の主格補語構文

岩宮 努

キーワード：構文論／連結動詞／分詞形容詞／不変化詞／メタファー表現

1. はじめに

本稿は、*un-V-ed*を補語に伴う *remain* の主格補語構文の意味と形式を考察する先行研究、Huddleston & Pullum (2002) 及び、岩宮 (2021) の記述をもとに、連結動詞 *remain* の補語に一般（肯定型）分詞形容詞を伴い、事態参与者に対する活動制限を表す主格補語表現の意味と形式について検討する。

より具体的には、「当該分詞表現が表す状態にもはや変化が生じない、つまり完結した出来事（completed events）とみなされる場合、補語にならない」（岩宮：2021）という連結動詞 *remain* の補語にかかる意味制約のもと、句動詞の過去分詞形を含む様々な *V-ed* が、「施設・設備に対する利用制限（Limited Accessibility）を表す *V-ed*」、「情報・機器・サービスの利用制限（Limited Availability）を表す *V-ed*」、「人・組織の活動制限を表す *V-ed*」、および「精神的及び時間的な束縛を表す *V-ed*」という生産性の高い4つの構文ネットワークを形成することを、コーパスデータによって実証する。

2. 先行研究と解決すべき課題

Huddleston & Pullum (2002) は、連結動詞 *remain* の補語に、接辞 *un-* が

付加した過去分詞のみが生起できる事例を観察している。彼らは、下記 (1) の *seen* が *remain* の主格補語としてみとめられないのは、*seen* が動詞の受動態に過ぎず、形容詞として捉えられないためであると主張している。

(1) He had **remained** {**unseen**/ ***seen**} throughout the meeting.

(Huddleston & Pullum 2002: 1440)

これに対し、岩宮 (2021) は、Huddleston & Pullum (2002) の一般化の不備を補い、*developed*, *proven* など、辞書項目でも形容詞として位置づけられる分詞形容詞が (1) の *seen* よりもさらに *remain* という連結動詞の補語として容認されにくいことを挙げ、「当該分詞表現が表す状態にもはや変化が生じない、つまり完結した出来事 (completed events) とみなされる場合、補語にならない」という *remain* という連結動詞に特有の意味制約が存在することを指摘している。

(2) a. It's amazing that the property has **remained** {**undeveloped**/
***developed**}.

(Wordbanks) (岩宮 2021)

b. The drug uses a scientific mechanism that **remains** {**unproven**/
***proven**} in humans ...

(Wordbanks) (岩宮 2021)

(2a) で *developed* を用いた文は「地所が開発されたままである」、(2b) で *proven* を使用した文では「(猿での治験を終えた動脈硬化の治療薬が、) 人間に無害かどうかはすでに証明されたままである」という解釈になるが、いずれも否定辞 *un-* を付加しなければ表現として容認されない。

ここでは否定辞 *un-* を付加した分詞形容詞 (*un-V-ed*) を補語に伴う「未完了」を表す主格補語表現 (*remain un-V-ed*) の意味と形式についてはあえて詳述しないが¹⁾、(2a, b) の肯定型分詞形容詞が容認されないのは、地所の開発、薬の安全性の証明という意図する目的が果たされているのであれば、

その分詞形が表す状態はすでに完結しており、もはや *remain* という連結動詞の補語として持続する事態とみなされないためである。

これに関連し、(1) の *seen* が *remain* の補語になれないのも、当該文脈での *seen* が完結した事態を表しているためであり、*seen* という *V-ed* そのものが *remain* の主格補語となる叙述形容詞として全く使用できないわけではない (3a-b. 参照)。

(3) a. Muslim New Zealanders **remain seen** as outsiders ...

(NZ 2021/ NOW Corpus)

b. No celebrity is truly seen without first choosing to be visible -- and they need to be visible to **remain seen**.

(US 2020/ NOW Corpus)

たとえば、本来はそうみなすべきではないのに、そのようにみなされている状態が続いてしまっていることを意味する場合や (3a)、著名人など、自身の活動を人々に周知させるという目的を主語の受動者が持つ場合などでは (3b)、*seen* という補語が完結した状態とみなされず、*remain* の補語 (叙述形容詞) として容認される。ちなみに、*remain* の補語としてほとんど認められない「完結」を示す分詞形容詞には、(2) の *proven*, *developed* の他に *addressed*, *answered*, *detected*, *done*, *finished*, *solved* などがあり、一方で、基本的に「完結」を示すものの、文脈に応じて「未完了」とみなされ、比較的のみとめられやすい分詞形容詞には (3) の *seen* の他に *completed*, *heard*, *written* などがある。

表1. *un-V-ed* を伴う *remain* の主格補語構文 (NOW Corpus)

	Remain V-ed	REMAIN UN-V-ED
<i>developed</i>	0	368
<i>proven</i>	0	480
<i>seen</i>	13	400

これらの「完結」を示す語は否定辞 *un-* を付加することで、基体の過去分詞形では表すことが困難な *remain* の主格補語構文として高い生産性を顕現するが（表1参照）、*ceased, concluded, ended, erased* など、完結の意味をもっていても、補語になる *un-V-ed* という分詞形自体の使用頻度が低いために、主格補語構文としてもほとんど機能しない語も存在する。いずれにせよ、「当該分詞表現が表す状態にもはや変化が生じない、つまり完結した出来事（completed events）とみなされる場合、補語にならない」（岩宮：2021）という *remain* の補語にかかる意味制約は、妥当な一般化として、その補語として生じにくい、ほとんど全ての *V-ed* にあてはまる。

ただ、否定辞 *un-* を伴わなくとも、高い頻度で *remain* の補語として成立する *closed, shut, locked, suspended, committed* などの *V-ed* を補語に伴う表現を、構文として、どのように記述すべきなのかという疑問は依然残る。これらの *V-ed* を *remain* の主格補語に伴う形式も、高い生産性を持つ言語表現、つまり構文であるといえるが、構文カテゴリーとして、どのような意味（スキーマ）をもつかは不透明である。

3. 連結動詞 *remain* の主格補語として生じる *V-ed*

本節では、*remain* の主格補語となって高い生産性を顕現する *V-ed* を、「施設・設備に対する利用制限（Limited Accessibility）を表す *V-ed*」、「情報・機器・サービスの利用制限（Limited Availability）を表す *V-ed*」、「人・組織の活動制限を表す *V-ed*」、「精神的及び時間的な束縛を表す *V-ed*」、という4つの構文カテゴリーに分類する。

3.1. 施設・設備に対する利用制限（Limited Accessibility）を表す *V-ed*

(4) の *closed* をはじめ、施設・設備などの一時的な利用制限を表す *V-ed* は、受動者を主語にとる主格補語構文において、とりわけ生産性が高い。

- (4) a. The door **remained closed** until the next afternoon when his body was discovered. (NZ 2022/ NOW Corpus)
- b. The school will **remain closed** today as a mark of respect and reopen on Monday. (Wordbanks)

(4a-b) の *the door, the school* のいずれの受動者も *remain closed* という述部を伴って生起しているが、この *closed* は受動者を主語にとる *V-ed* の中で、とりわけ生産性が高く、Wordbanks において 392 例が *remain* の主格補語として成立している。

- (5) a. The building **remained sealed** yesterday as bodies were removed.
- b. The bottom half of the door **remains locked** while the top half is open. (Wordbanks)

他にも、施設・設備の利用制限 (Limited Accessibility) は、(5a) の *sealed* のように、人の出入りに関して徹底した封鎖 (立ち入り禁止) 状態を表す *V-ed* や、(5b) の *locked* のように、どのように *closed* されているかに (つまり施錠によって開閉ができなくなる) 焦点が当てられる *V-ed* などによっても表される。

- (6) a. ... all escape routes **remain blocked** by the fast-growing wildfire. (US 2021/ NOW Corpus)
- b. His route to the top was and **remains blocked** by Tiger Woods. (Wordbanks)

また、これらの *V-ed* を伴う主格補語表現は、メタファー表現としても使用される。(6a) は避難ルートが野火によって遮断されたままであるという実際の出来事を文字通り描写する表現であるのに対し、(6b) は、タイガー

ウッズという人間が、あたかも道に立ち塞がる門戸のように、他のゴルファーとしての頂点に向かう道を閉ざす障害となっているという事態を表すメタファー表現である（メタファーに関しては、Lakoff 1984, 谷口 2003 参照）。これまでの事例をふまえ、Wordbanks（6 億語）において *remain* の補語としてある程度の頻度（5 例以上）であらわれる施設・設備の利用制限を表す一般分詞形容詞を表2にまとめる。

表2. 施設・設備の利用制限 (Limited Accessibility) を表す *V-ed* (Wordbanks)

Remain V-ed		Remain V-ed	
<i>closed</i>	392	<i>sealed off</i>	19
<i>shut</i>	66	<i>sealed</i>	8
<i>locked</i>	33		(27 [表3]) ²⁾
<i>blocked</i>	25	<i>shut down</i>	6

表2によると、*remain* の主格補語として、*sealed off*, *shut down* といった句動詞の過去分詞形が使用されることも多い。

- (7) The reactor **remains shut down** in safety mode until the cause of the leak is uncovered and corrected. (IE 2021/ NOW Corpus)

たとえば、*shut* だけでは、*door* あるいは *window* のような目的語をとり、通常門戸の閉鎖のような利用制限を意味するが、(7) では *shut down* という句動詞の過去分詞形を用い、原子炉という施設の完全な利用停止状態を示す。

3.2. 情報・機器・サービスの利用制限 (Limited Availability) を表す *V-ed*

情報・機器・サービスの利用制限を表す *V-ed* も *remain* の補語として使用されやすい。また、これらの *V-ed* を伴って生じる主格補語表現でも、空間

的な位置関係を表す動詞を用いて、抽象的な概念や事象などを形容するメタファー表現が使用される。

- (8) Other investigation information **remains sealed**, but Warren County Prosecutor Rachel Hutzel said ... (Wordbanks)

(5a) の *sealed* が、受動者の施設に対する第三者の利用制限が示唆される一方で、(8) では、ある組織内の *information* を受動者（主語）にとり、その情報が厳重に保管され、通常は利用できないという意味を表す。容器に入れられた事物には、しばしば外部からアクセス不可能となり、また外部からそれを保護する力が加わる。そして、その現実世界のイメージは、メタファーとして様々な言語表現に反映される (Johnson 1987)。(8) は、組織を容器（ランドマーク）、組織内にある情報を内容物（トラジェクター）にたとえ、データは保護され、アクセスできない状態になっていることを示す、メタファー表現である³⁾

- (9) a. All flights at Srinagar Airport **remained suspended** due to poor visibility on Monday, officials said. (GB 2021/ NOW Corpus)
 b. Unfortunately, even after this case is settled, we can assume that ice cream machines will **remain broken**. (US 2022/ NOW Corpus)

一方で、空港内の定期便の利用停止を示す (9a) の *suspended* や、(9b) の *broken* などの主格補語表現は、メタファーではなく、動詞本来の意味が、機器の故障やサービスの停止などを表す。ただ、表3が示すように、この「情報・機器・サービスの利用制限」を表す *V-ed* で、高い頻度で *remain* の補語として生起する語は少ない (*broken* を伴い、情報・機器などの利用制限を意味する表現は、*bike* と *system* を受動者にとって故障を表す2例のみ)⁴⁾

表3. 情報・機器・サービスの利用制限を表す V-ed (Wordbanks)

Remain V-ed		Remain V-ed	
<i>sealed</i>	27	<i>suspended</i>	27
	(8 [表2])		(48 [表4])

なお、NOW Corpus などの巨大コーパスでは、サービスの停止（利用制限）を意味する (10) の *blacked out* (停電したままである) といった V-ed が *remain* の補語となる事例が数十例という規模で英語圏のデータにみとめられる。

- (10) ... a number of road lanes remained closed due to fallen trees and traffic lights **remain blacked out**. (AU 2019/ NOW Corpus)

3.3. 人・組織の活動制限を表す V-ed

人・組織の活動制限を表す V-ed を伴う *remain* の主格補語表現では、施設内に閉じ込められる人や組織の活動が制限される、境界線によって分断された人や国どうしの活動が困難になる、といった事態が表される。

- (11) a. But numerous other Saudis **remain imprisoned or banned** from travel. (US 2022/ NOW Corpus)
- b. India and Pakistan have fought three wars over the region, in 1947, 1965 and 1999, and **remain divided** by a line of control ... (Wordbanks)

(11a) の *imprisoned, banned* は、一部サウジアラビア人の収監・移動禁止を表し、(11b) は軍事境界線が、国どうしの交流を断ち切る障害となっているという事態を表す。

- (12) The officer **remains suspended** as he is still subject to misconduct proceedings ... (GB 2022/ NOW Corpus)

(9a) でサービスの停止を意味した *remain suspended* という表現は、人を受動者にとる場合、その人物の停職や出場停止、停学といった事態を表す(12)。収監、拘束、入院、手錠などの手段によって、受動者の活動が制限される状態を表す *imprisoned, locked up, detained, hospitalized, handcuffed*、人や集団の隔離状態を示す *divided, separated* など、表4が示すように、このカテゴリーに属する *V-ed* は TYPE としての生産性が高い。

表4. 人・組織の活動制限を表す *V-ed* (Wordbanks)

Remain V-ed		Remain V-ed	
<i>divided</i>	153	<i>detained</i>	11
<i>suspended</i>	48	<i>separated</i>	10
	(27 [表3])	<i>locked away</i>	8
<i>imprisoned</i>	29	<i>shackled</i>	8
<i>locked up</i>	16	<i>handcuffed</i>	7
<i>hospitalized</i>	14		

また、*locked up* と *locked away* といった句動詞の過去分詞形が、共に高い頻度で *remain* の補語に生じ、物理的な施錠による閉鎖を意味する *lock* と異なり、(13) の *remain locked away* など、「差別的待遇を受け続けている」といった受動者の人にかかる活動制限を意味するメタファー表現として使用されることにも留意されたい。

- (13) East African survivors of the ecological devastation **remain locked away** in contained communities, ... (US 2010/ NOW Corpus)

3.4. 精神的及び時間的な束縛を表す V-ed

最後に観察する *remain* の主格補語となる分詞形容詞は、従事する活動、懸念や考えなどを示す付加部を伴い、精神的・時間的な束縛を表す。これらの *remain V-ed* に付加部を伴う表現 (*remain V-ed +Adjunct*) は、*be* 動詞の代わりとして、*remain* が使用される派生的イディオム表現で、その付加部には特定の活動や懸念などに執着しすぎること、受動者の活動が制限される事態が表される。

- (14) a. The prime minister emphasised that the UK **remained committed to** the humanitarian relief effort in the region ... (Wordbanks)
- b. People **remain worried about** unemployment, with anxieties returning to the levels of last winter ... (Wordbanks)

Remain committed to NP という表現では、(14a) の英国が行っている人道支援のように、主語の受動者が何らかの行為に絶えず専念し、他の活動を充分に行う余裕がない事態が示される。一方で、(14b) では、失業という懸念材料に、受動者が絶えず執着している状態が表される。表5に列挙されるのは、*V-ed* に特定の付加部を加えた形容詞句を連結動詞 *remain* の補語に伴い、高い頻度で成立する主格補語表現である（この主格補語表現は TYPE と TOKEN、いずれの頻度も高いため、20例以上成立している上位10個の主格補語表現のみを挙げることにする）⁵⁾。

表5. 精神的及び時間的な束縛を表す *V-ed* (Wordbanks)

Remain V-ed + Adjunct		Remain V-ed + Adjunct	
<i>remain committed to NP</i>	758	<i>remain attached to NP</i>	39
<i>remain focused on NP</i>	202	<i>remain convinced of NP</i>	28
<i>remain concerned about NP</i>	92	<i>remain involved with NP</i>	25
<i>remain involved in NP</i>	60	<i>remained worried about NP</i>	24
<i>remain wedded to NP</i>	53	<i>remain obsessed with NP</i>	20

これらの *remain V-ed* に付加部を伴う表現は、これまで論じた「施設・設備に対する利用制限 (Limited Accessibility) を表す *V-ed*」、*「情報・機器・サービスの利用制限 (Limited Availability) を表す *V-ed*」*、「人・組織の活動制限を表す *V-ed*」を表す *V-ed* を伴う主格補語表現ほど、受動者に対する直接的な活動制限を示すわけではないが、しばしば特定の活動や懸念、考えに絶えず執着することによる精神的・時間的束縛を意味する⁶⁾。

また、これらの主格補語表現では、付加部を伴うイディオム的な *V-ed* を補語にとることによって、生産性が顕現される。たとえば、*remain committed* という付加部なしで成立する主格補語表現は41例と、*remain committed to NP* という形容詞句 (758例) を補語とする表現と比較すると、表現として成立する比率はかなり低い。他にも、*focused* が79例と付加部なしで *remain* の補語として成立する用例が若干多いが、*involved* (42例)、*concerned* (14例)、*convinced* (7例)、*worried* (6例)、*attached* (5例)、*obsessed* (3例)、*preoccupied* (3例)、*remain wedded* (0例) と、表5の *V-ed* は通常付加部を伴わなくては、*remain* の補語としての成立が困難であることがわかる。

これらの *V-ed* が付加部を伴って、*remain* の補語として高い生産性を顕現する理由は、執着する懸念や課題を付加部として明示することで、*remain* という連結動詞の補語として持続する事象と捉えられやすいためであると考えられる。

たとえば、*worried* は付加部を伴わなくとも、*remain* の補語になれるが、

健康上のリスクや未来への不安などの明確な懸念材料が表される付加部を伴えば、主格補語表現として使用されやすくなる。言い換えれば、わずかな休息によって簡単に収まってしまうような状態は、概して *remain* の補語としてあまり高い頻度であらわれない。そのため、*surprised* (4例) や *shocked* (11例) など持続されないと想定される感情状態や、*tired* (1例) や *fatigued* (0例) など身体的な疲労を示す *V-ed* は *remain* の補語として、あまり使用されない。

ちなみに、COHA のデータによると、(15a) の *remain committed to NP* や *remain focused on NP* といった表現は、1800年代には使用されていない新規的な表現である。(15b) の *remain convinced that S' V'* という *that* 節を付加部に伴う表現も新しく、現在では Wordbanks において 411 例もの用例がみられ、生産性の高い主格補語表現と使用されているものの、この主格補語表現は 1860 年代フィクションの使用域にあらわれ、1950 年までに 6 回しか使用されていない (おそらく表現として近年までほとんど定着していなかったと推測される)⁷⁾。

- (15) a. ..., the Administration **remains committed to** acceptance of a treaty that would provide for a few -- perhaps a half dozen -- inspections of Soviet territory. (News. 1963/ COHA)
- b. Yesterday a spokesman for Lothian and Borders police said they **remained convinced that** she was dead. (Wordbanks)

4. 事態参与者に対する活動制限を示す *remain* の主格補語構文

ここまで、本稿は連結動詞 *remain* の補語として、生産性の高い主格補語表現を顕現する肯定型分詞形容詞を、「施設・設備に対する利用制限 (Limited Accessibility) を表す *V-ed*」、「情報・機器・サービスの利用制限 (Limited Availability) を表す *V-ed*」、「人・組織の活動制限を示す *V-ed*」、そ

して「精神的及び時間的な束縛を表す *V-ed*」の4つの構文カテゴリーに分類した。

- (16) a. Meanwhile, St John of God Ballarat Hospital **remains closed** to visitors until at least Wednesday due to COVID-19 concerns in the community.
(AU 2022/ NOW Corpus)
- b. All visits to patients at Chesterfield Royal Hospital **remain suspended**, ...
(GB 2020/ NOW Corpus)
- c. The patient **remains hospitalized**, health officials said.
(US 2015/ NOW Corpus)
- d. We know that we are in a crisis and **remain committed to** caring for patients.
(US 2020/ NOW Corpus)

4つの構文カテゴリーに属する *V-ed* は、事態参与者に対する何らかの活動制限を示す。たとえば、(16a) では、不特定多数の人々に病院の利用制限が課される一方で、(16b-d) では、面会を望む患者の親族や友人、入院を余儀なくされる患者、患者の対応に追われる医療関係者、といった事態参与者の活動制限が表される。

「個々の構成要素から文全体の意味が推測できるものであっても、十分な使用頻度がみとめられる言語表現を構文とみなす」という Goldberg (2006: 6-7) の定義に従い、事態参与者の活動制限を示す、4つの *remain* の主格補語表現の意味と形式を以下 (17a-c) 及び (18a-d) にまとめる。なお、最後の派生的イディオム表現を補部に伴う主格補語構文は、*V-ed* の基体動詞の性質に応じて異なる前置詞を伴い付加部を形成するが、ここでは前置詞が表す意味に着目し、4つの形式に分類して記述することとする。

- (17) [NP₁ *remains V-ed*] (NP: THE PATIENT) ↔
- a. [the access to X₁ has been restricted with X₁ being *V-ed*]
closed, locked, sealed, sealed off, shut, shut down, ...
- b. [the availability of X₁ has been restricted with X₁ being *V-ed*]
sealed, suspended ...
- c. [the action of X₁ has been restricted with X₁ being *V-ed*]
*detained, divided, handcuffed, hospitalized, imprisoned, locked away,
 locked up, separated, shackled, ...*

(17a-b) の主語の項に収まる人・事物 (NP₁) は、いずれも *V-ed* の基体動詞が表す行為によって、状態変化、あるいは位置変化をもたらす働きかけを受ける (Jackendoff 1990)、つまり受動者 (THE PATIENT) となる⁸⁾。いずれの構文でも *V-ed* は、事態参与者に対して制約を課す何らかの行為を意味するが、(17a) の *V-ed* を補語に伴う表現では、施設・設備などに対し、第三者が利用制限を被る一方で、(17b) の主格補語構文では、その施設や組織の内部の情報・機器・サービスの利用者に活動制限がかかる。一方で、(17c) の収監、拘束、入院、隔離などの人の活動制限を意味する *V-ed* を伴う主格補語表現では、閉塞した施設の内部の人間の不自由 (拘束状態) などが表される。

なお、(17a) の *V-ed* が施設への出入りなど、主に移動に焦点を当てた「利用制限」であるのに対し、(17b) の *V-ed* は施設や組織内部の機器や情報・サービスなどの「利用制限」であり、構文式においても、(17a) の施設の利用を *access*、(17b) での機器やサービスの利用を *availability* と、異なる意味表記で記述していることにも留意されたい。

これらの構文の生産性は、*V-ed* への不変化詞の付加 (つまり句動詞の形成)、そしてメタファーによって、施設の利用制限、事物の利用制限から、人や組織の活動制限へと意味が拡張されることによって、顕現されている。これまで言及した *sealed*, *divided*, *blocked* などに加え、たとえば、*remain*

shackled という表現では、‘*Consumers remain shackled by heavy debts, ...* (Wordbanks)’ (顧客は莫大な借金によって身動きがとれないままである) のように、しばしば抽象的な概念 (借金) を表す付加部を伴って、メタファー表現が生じる (表4の8例全てがメタファー表現となり、手枷足枷がされているという文字通りの解釈がなされる表現はまれである)。

(18) a. [NP₁ *remains V-ed to* NP₂](NP₁: THE PATIENT/ NP₂: THE GOAL)

↔ [the activities of X₁ has been restricted with X₁ occupied by being V-ed to Y₂]

attached, committed, wedded ...

b. [NP₁ *remains V-ed in* NP₂](NP₁: THE PATIENT/ NP₂: THE STATE)

↔ [the activities of X₁ has been restricted with X₁ occupied by being V-ed in Y₂]

involved, ...

c. [NP₁ *remains V-ed {about/by/of/on/ with}* NP₂](NP₁: THE PATIENT/ NP₂: THE STIMULUS)

↔ [the (mental) activities of X₁ has been restricted with X₁ occupied by being V-ed {about/ by/ of/on/ with} Y₂]

concerned, convinced, focused, obsessed, worried, ...

d. [NP₁ *remains V-ed (that)* CLAUSE₂](NP₁: THE PATIENT/ CLAUSE₂: THE STIMULUS)

↔ [the (mental) activities of X₁ has been restricted with X₁ occupied by being V-ed about Y₂]

concerned, convinced, worried, ...

付加部を伴って生じる (18a-d) の *remain V-ed* の主格補語表現でも、*V-ed*

の基体動詞が表す行為によって、状態変化をもたらす働きかけを受ける人・組織、つまり受動者を主語 (NP₁) に伴う。ただ、これらの付加部を伴って肯定型分詞形容詞を補語にとる表現では、収監や入院といった直接的な拘束ではなく、むしろ精神的・時間的な束縛によって間接的に生じうる活動制限が表される。

また、(18a) の前置詞 *to* に導かれる付加部は通常、(19) の左翼的教義といった、受動者が従事している活動や強く執着する考えなどを表す。なお、*remain wedded to NP* (～に傾倒したままである) という表現において、主要部の *wedded* という分詞形容詞が「結婚している (*married*)」の意味で解釈される表現はほとんどない (表5の53例に対し、Wordbanksには1例のみ用例がみられる)。

(19) ... she **remains wedded to** French leftist doctrines of strong job protection and a firm state hand on the economy. (Wordbanks)

一方で、(18b) の前置詞 *in* に導かれる付加部を伴う表現では、*business*, *project* など、受動者がその職責上、義務的に参加している活動を付加部にとることが多い。(18c) の動詞の性質に合わせて様々な前置詞を伴って生じる付加部を伴う主格補語構文は、受動者の人の注意や意識が、懸念材料や特定の考えに向けられていることを示す。最後に、(18d) の *that* 節を補語に伴う *V-ed* は、前節で触れたように、通時的に新規的な表現形式であり、*convinced*, *concerned*, *worried* といった分詞形容詞が *that* 節をとることから、(18c) の形式をモデルとして形成されたものと考えられる (*remain convinced that S' V'* は前節で既述したように411例、*remain concerned that S' V'* は78例、*remain worried that S' V'* は12例、Wordbanks上にその用例がみられる)。

5. 結び

本稿は、*remain* の主格補語構文の補語には、事態参与者に対する活動制限を示す肯定型分詞形容詞 (*V-ed*) が特に生じやすく、また、それらの *V-ed* は、「施設・設備に対する利用制限 (Limited Accessibility) を表す *V-ed*」、「情報・機器・サービスの利用制限 (Limited Availability) を表す *V-ed*」、「人・組織の活動制限を表す *V-ed*」、および「精神的及び時間的な束縛を表す *V-ed*」、という4つの構文カテゴリーにおおよそ分類可能であることをコーパス上のデータによって裏付けた。

また、メタファーによる意味拡張や、句動詞の過去分詞形や節を補部にもつ *V-ed* など様々な形式を補語に伴うことによって、これらの主格補語表現は、事態参与者の活動制限を表す多様な意味を形成することも、事例によって観察することができた。いずれにせよ、事態参与者の活動制限を表す *V-ed* は *remain* の補語として生起しやすい、という一般化は、補語として生起頻度の高いかなり多くの語に当てはまる、おおよそ妥当な一般化であると考えられる。

[注]

- 1) *Remain un-V-ed* の主格補語構文については、本稿の先行研究としても引用されている岩宮 (2021) を参照。
- 2) 本稿は、人か事物をとるか、施設か内部の事物をとるか、など受動者によって意味が大きく異なる *V-ed* は、それぞれの意味で分類し、その生産性を換算している。そのため、各表には、そのカテゴリー内の意味で *remain* の主格補語表現が成立する用例数が記載されており、違う意味での用例数は、当該用例数の下に表番号とともに下付き文字で記載されている。
- 3) ‘*For now, the weapons remained sealed in the armories, but the vaults poured open.* (COCA)’ などのように、容器や施設内の内容物として具体的な事物 (*weapons*) を伴うこともあるが、通常、内容物を主語として *remain sealed* を述部に伴う表現の

場合、(8)のように、コンピュータ機器や施設内にあるデータなど、メタファー的に捉えられた事物が主語の項に収まる。

- 4) この *broken* は、他に *the heart remains broken* (傷心したままである)、*the relationship remains broken* (破綻した関係のままである) などの表現でも *remain* の補語として成立する。
- 5) 表5において、付加部と判定されるのは、その動詞の過去分詞形に付加することで特定の意味を与える前置詞句であり、LDOCE や Cobuild などの辞書項目で、通常 *be* 動詞を伴い、*be committed to NP* などと記載される、イディオム表現の構成要素である。したがって、*'What happened to the view that a man and woman should marry, raise children and remain committed for a lifetime? (Wordbanks)'* といった文における *for a lifetime*、他には *for, through, until, before, after* などによって時の経過・出来事の時系列を表す前置詞句、また *'... his name remains attached in many ways. (Wordbanks)'* といった文における *in many ways* など、様態を表す前置詞句は、付加部とみなさない。
- 6) 表5の *V-ed + Adjunct* という分詞形容詞句は、*remain* の補語として高い頻度で生起するだけでなく、*'X {be /get/ become} so ~ that X cannot do Y.'* (Y: what X is supposed to do) という本稿が提案するテスト・フレームで文が成立するかによって、その形容詞句が表す状態が受動者に活動制限をもたらすかを、確認することができる。

(i) I've met church treasurers who were so worried about the church finances that they couldn't sleep at night.

(ii) He is so committed to the idea of progress that he cannot recognize the horror of the project's toll of 20,000 dead, ...

(Wordbanks)

このテストでは、従節内に分詞形容詞の被修飾者(節内の主語)の人・事物の結果状態が示されるという、*{be /get/ become} so ~ that ...* の主格補語表現の性質を利用し (Leech 2003)、形容詞句によって表わされる状態によって受動者の活動が制限されるコーパス上の事例を確認する。たとえば、(i) では心配事によって眠ることができない、(ii) では性急に事を進めるあまり重大な問題に気付かない、という形容詞句が示す状態によって、本来なされるべき何らかの行為が遂行不可能になる事態が表される。より具体的には、このテストでは、主節と従節で同一の主語をもつ *so ~ that ...* 構文において、その形容詞句が表す状態のために、受動者の行為の遂行が不可能となる事態を表す動詞句が補文内に成立するかどうかを確認している。なお、*X is {unable/ not able} to do Y*、*X can {hardly/ scarcely} do Y*、*X has {no/ little} time for (doing) Y*、*X has {no/little} energy for (doing) Y*、といった動詞句も、X が Y という行為をその意思に関わりなく行うことができないという点

で、ほぼ同じ事態を表し、異なる実現形としてみとめ、用例の換算を行っている。
[X {be/get/ become} so ~ that X cannot do Y のテスト・フレームによる調査結果 (Wordbanks)]

従節内の X cannot do Y の成立数	主節の主格補語となる分詞形容詞句
6	<i>excited, tired</i>
5	<i>worried about NP</i>
4	<i>preoccupied with NP</i>
3	<i>committed to NP, embarrassed, shocked,</i>
2	<i>ashamed, attached to NP, convinced about NP, convinced of NP, focused on NP, frustrated, obsessed with NP, stressed, wedded to NP, worried</i>
1	<i>disturbed, devoted to NP, scared, surprised, tired of NP,</i>
0	<i>ashamed of NP, attached, committed, convinced, dedicated, excited about NP, focused, interested, obsessed, preoccupied, satisfied, wedded</i>

ここでは、*remain* の補語に生じうる人の身体・精神状態を表す *V-ed* を調査しているが、表5の *worried about NP* に5例、*committed to NP* に3例、*attached to NP, convinced about NP, convinced of NP, focused on NP, obsessed with NP* という表現に、それぞれ複数例 *X cannot do Y* が生起する用例がみられ、これらの形容詞句が表す状態が受動者の活動を制限しうるということがわかる。また、このテスト結果は、*worried* (2例) を除けば、付加部なしでは、受動者の行為の遂行が不可能となる事態を表す動詞句が補文内に成立しにくいことも示している（つまり、取り組んでいる課題や懸念などを付加部として明示される表現の方が、従節内にある行為の遂行不可能な状態が示されやすいことになる）。

(iii) I am so tired that I cannot stand any longer. (Wordbanks)

ちなみに、上記の調査結果が示すように、このテストでは、(iii) の *tired, excited* といった分詞形容詞が表す状態が特に、ある行為の遂行不可能な事態を招くことになるが、*pleased* や *dedicated* など、ポジティブな意味合いをもつ分詞形容詞では、従節内に *cannot do* を表す動詞句がほとんどあらわれない。なお、このテストを用いて一般形容詞を判定すると、*poor* や *busy* といった語が、受動者の活動制限をもたらしやすい語と判定される。

- 7) ちなみに *remain convinced that S'V* では、*that* の省略も可能で、110/411例の *that* が省略されている。
- 8) 目的語に対して状態変化や位置変化などの働きかけをしない他動詞や、あるいは目的語でない語に働きかけをする他動詞も存在し、他動詞の目的語や結果構文における他動詞の目的語が (*wipe the table clean* の *the table* など、結果構文の参与者

についての議論はGoldberg 1995参照)、受動者といえるかどうかが議論になる場合がある。Jackendoff (1990)によると、*enter*, *march down* など、場所格の目的語をとり動作主の移動を表す、‘*Bill entered the room*’ といった文では *the room* に何の働きかけも生じず、この目的語は受動者ではないとみなされる。また、*resist*, *withstand*, *give in* など主語の人の反応を示す動詞を伴う‘*Sam resisted Harry*’ などの文の場合、受動者は目的語の *Harry* ではなく、主語の *Sam* となる。ちなみに、連結動詞 *remain* を伴って生じる主格補語表現の場合、NOW コーパスのような巨大コーパスを用いても、*the room remains* {**entered/ *approached/ *visited/ *reached/ *marched down*} など、*room* などの移動場所を表す疑似目的語 (fake object) を主語に伴って主格補語構文は成立せず、*resist* や *withstand* の過去分詞形 (つまり *resisted* や *withstood*) が *remain* の補語になる用例もみられず、主語が受動者であるかどうか、議論の対象になるとは考えにくい。そもそも、*remain* の主格補語が過去分詞の形式をとっているのであれば、それは受け身文なので主語は受動者であり、主語が動作主であるなら、当然 *remain V-ing* の形式をとることになる (*standing*, *living*, *sitting*, *working*, *lying*, *staying* など、*remain* の補語となれる自動詞は状態動詞が多い。ただ、主格補語として最も成立頻度の高い *remain standing* といった表現でも Wordbanks で 25 例しかなく、生産性は高いとはいえない)。

[参考文献]

- Goldberg, Adele. 1995. *Constructions*. Chicago: University of Chicago Press.
- Goldberg, Adele. 2006. *Constructions at Work*. Oxford: Oxford University Press.
- Huddleston, Rodney and Geoffrey Pullum. 2002. *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University.
- 岩宮努. 2021. 「連結動詞 *remain* の意味と否定辞 *un-* を伴う主格補語構文」. 『英語語法文法学会第 29 回大会予稿集』. 英語語法文法学会.
- Jackendoff, Ray. 1990. *Semantic Structures*. Cambridge : MIT Press.
- Johnson, Mark. 1987. *The body in the mind*. Chicago: University of Chicago Press.
- Lakoff, George and Mark Johnson. 1980. *Metaphor we live by*. Chicago: University of Chicago Press.
- Leech, Geoffrey and Jan Svartvik. 2002. *A Communicative Grammar of English*. London: Longman.
- 谷口一美. 2003. 『認知意味論の新展開：メタファーとメトニミー』. 東京：研究社.

コーパス

COCA Corpus. BYU. (<https://www.english-corpora.org/coca/>)

COHA Corpus. BYU. (<https://www.english-corpora.org/coha/>)

NOW Corpus. BYU. (<https://corpus.byu.edu/now/>)

WordBanks. 小学館コーパスネットワーク. (<http://scnweb.jkn21.com/WBO2/>)

辞書

Collins Cobuild Dictionary Online. Harper Collins UK. (<https://www.collinsdictionary.com/dictionary/english>)

Longman Dictionary of Contemporary English (LDOCE) Online. Pearson Education Limited. (<https://www.ldoceonline.com/>)

Oxford Dictionary of English. 2010. Oxford: Oxford University Press.

Oxford English Dictionary. 3rd Edition.

(大学院博士後期課程学生)

SUMMARY

The Copula Constructions of *remain* with *V-eds*, Representing
 ‘*Limited Actions*’ of Event Participants

Tsutomu IWAMIYA

The copula constructions with past-participles (*V-eds*) as the subject-related predicative complements (PC) of the linking verb *remain* are especially productive, when the *V-eds* indicate the “*Limited Actions*” of Event Participants. For instance, the following examples found in *News on the Web Corpus* (i-iv) all indicate the “limited actions” of someone involved in the event (the event participant): (i) those who visit the hospital, (ii) the family and friends of the patients who do so, (iii) the patients, (iv) the doctors and nurses committed to caring for patients.

- (i) Meanwhile, St John of God Ballarat Hospital **remains closed** to visitors.
- (ii) All visits to patients at Chesterfield Royal Hospital **remain suspended**, ...
- (iii) The patient **remains hospitalized**, health officials said.
- (iv) ... we are in a crisis and **remain committed to** caring for patients.

The meanings of these *V-eds*, which are frequently used as the subject-related PC of the linking verb *remain*, can be categorized into “Limited use of facilities” such as *closed*, *shut*, *locked*, “Limited use of information and services” such as *sealed*, *suspended*, “Limited freedom of action” such as *imprisoned*, *locked up*, *hospitalized*, *detained*, *handcuffed*, and “Mental constraints” such as *{attached/committed/ wedded} to some activities*. These four copula constructions can be represented in the following schemata.

[NP₁ *remains V-ed*] (NP: THE PATIENT) ↔

- a. [the access to X₁ has been restricted with X₁ being *V-ed*]
- b. [the availability of X₁ has been restricted with X₁ being *V-ed*]
- c. [the action of X₁ has been restricted with X₁ being *V-ed*]

[NP₁ *remains V-ed to* NP₂] (NP₁: THE PATIENT/ NP₂: THE GOAL) ↔

- d. [the activities of X₁ has been restricted with X₁ occupied by being *V-ed to* Y₂]